

テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.2, No.1 (2004)

テラヘルツテクノロジーの産業化を目指して

日本の製造業は国際競争力を失いつつあります。戦後の日本を育ててきた産業は東南アジア諸国に流れ、産業の空洞化が進行し、社会や経済のさまざまなところで破綻が現れています。これを受けて政府の21世紀初頭の課題として経済的に強い日本を創るための政策がうちだされています。強い日本を創るための国家戦略の中に産学官連携の推進と次代の産業基盤を構築するプロジェクトベースの研究開発の推進が挙げられています。これは、産学官が連携することにより大学等の基礎研究をもとに高付加価値商品を作り、その中からグローバルトップ産業が生まれてくることで国際競争力の強化に繋がるというシナリオであります。産業化のプロセスがスムーズに行われるようになるためには、これを推進する行政の役割が重要となってまいります。欧米の大学は、産学官連携に前向きな姿勢で取り組み学術的研究の基本は守りつつも企業と協力しながら現実のニーズに合わせた研究を実施し、国際競争力の向上に貢献していると言われております。

これまで未開拓であったテラヘルツ技術を応用した新規産業の創出を目的として、産学を中心としたテラヘルツテクノロジーフォーラムが昨年10月1日に発足しました。我が国のテラヘルツ産業の立ち上げを加速させるためには、このテラヘルツテクノロジーフォーラムが中心となって産業化までのロードマップを示しながら国家レベルのプロジェクトを次々と立ち上げていくことが必要ではないでしょうか。また、テラヘルツテクノロジーのような新技術をビジネスへと導くためにはあくまで産業界が主体となるべきであると考えております。最終的には世界に売れる商品を作らなくてはなりません。

1990年代に入り、テラヘルツブームが起こりテラヘルツ関連の研究開発が世界中で精力的になされるに至っております。その中でも分光やイメージングなどの先端計測分析技術の研究や機器開発が、欧米諸国や我が国でも活発に行われるようになってきました。この周波数領域には、物質や生体の重要な物性情報が存在しているため、材料分野、バイオテクノロジー分野、医用分野と多岐にわたる市場が期待されます。

現在、我が国は、グローバルトップ産業を創出しなければならないフロントランナー時代を向かえております。このテラヘルツテクノロジーフォーラムを基盤に、世界をリードする新規産業が生まれていくことを願っております。最後にフォーラムは学会ではありませんので産業界の皆様も挙って参加されることを願う次第です。

テラヘルツテクノロジーフォーラム副会長

岩崎 純